

Ⅲ-①築山・遊具DIYイベントを開催



築山や砂場の遊具を作る際に、子ども達と保護者の協力を得ました。また、その後のメンテナンスについても子ども達と保護者共にDIYイベントとして行うことで、皆で愛着の持てる遊具としています。

Ⅱ-②登降園の安全に配慮したドライブスルー



歩車分離を明確にすることで安全を確保し、子どもが飛び出さないようになっています。また、ドライブスルーで乗降できる場所を建物ピロティ内に設けているので雨の日でも子ども達が濡れずに園舎に入れるようになっています。

Ⅲ-③フリーアドレスの職員室



保育者の日々の振り返りができる場として、子ども達ものぞき込みやすいように多数の窓を配置しています。また、園の中心に位置することで、アプローチや運動場全ての出入口を見渡し、管理できるようになっています。

Ⅱ-④乳児の安全避難に配慮

集合型玄関は未満児にとって避難の際、デメリットとなるので、スロープから別経路で避難できるように設置しています。

Ⅰ-⑤異年齢の交流に配慮した保育室を配置

3号認定の2歳児が、進級する前に、幼児クラスと関わりを増やすために、2号認定の3歳児が利用する保育室を近くに配置しています。

Ⅲ-⑥異年齢の交流に配慮した動線形状

各階の保育室同士を繋ぐ扉を設置することにより子どもと先生が行き来することで、異年齢保育など、子ども達が多様な人と関われるようになっています。

Ⅱ-⑧えほんの部屋



地域や園保護者も利用でき、絵本の貸し出しを行っています。保育者がオンライン研修等も実施できるようにしています。

Ⅱ-⑫新しいこどもを育てる園庭と築山遊具



園庭には実なる木を植えたり、田んぼを作り自分達で作ったものを育てる、触る、収穫する、食べる。を実体験できるようにしています。園庭に面したバルコニーからは園児が行なう外遊びを見渡せる絶好の観覧席になり、声を掛け合う姿があります。

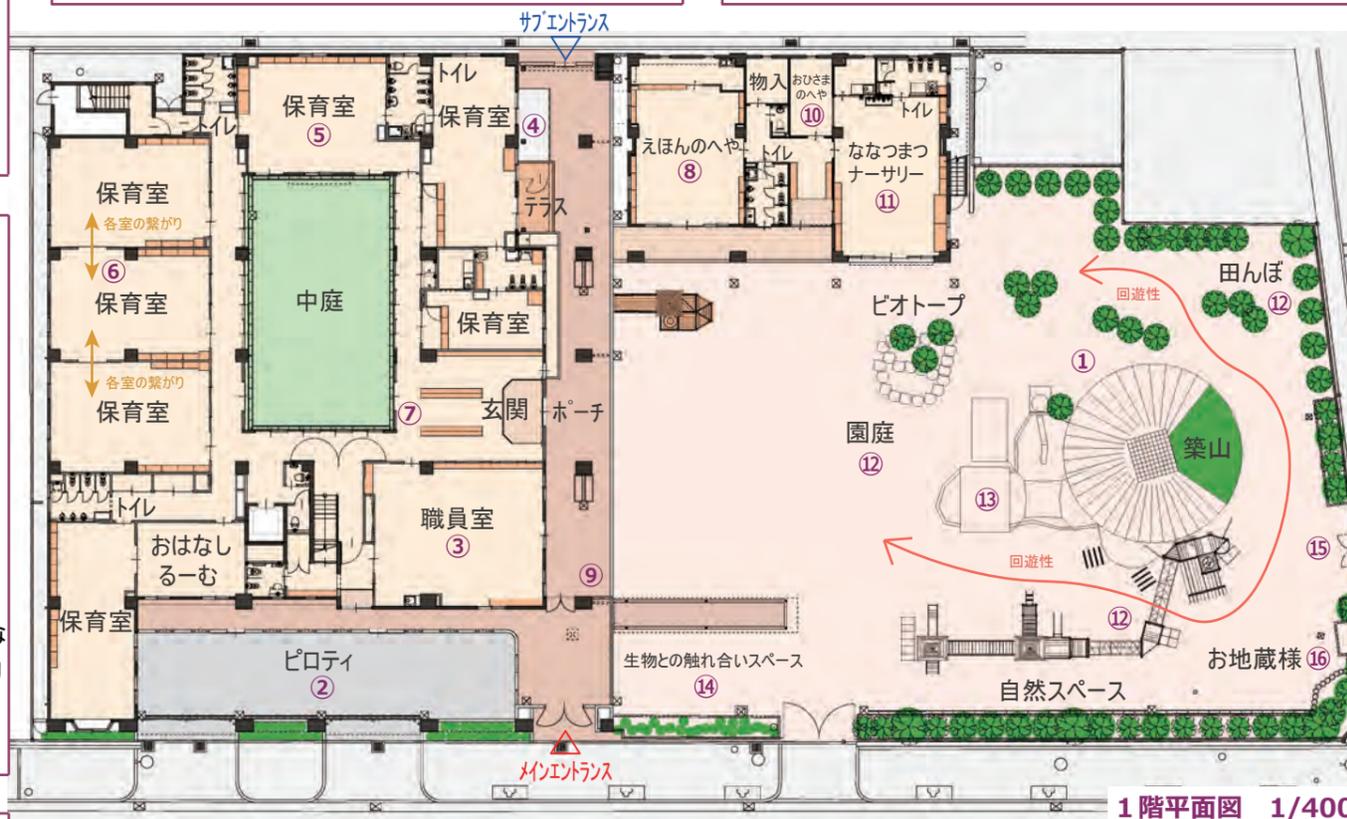
Ⅱ-⑬動的な砂場スペース

固まりやすい砂を入れることで子どもたちが思い思いの形を作り、作ったものを少しずつ、つなげて大きなものを作っています。



Ⅲ-⑭静的な砂場スペースと生物との触れ合いスペース

生物との触れ合いスペースにわたり、うさぎを飼育し触れ合える場を設けています。生き物が身近な存在であると感じることができます。



1階平面図 1/400

Ⅲ-⑦季節の物や本に出会える玄関



集合型の玄関にすることで、登園してきたときに園の旬の物や本を配置して、子どもや保護者の目に留まるようになっています。

Ⅲ-⑨SDGs

幼児期から体験を通して、SDGsへ繋がる意識が芽生えるように各所にアイコンを設置しており、その1つとして雨水タンクを設置しています。

Ⅰ-⑩おひさまのへや

保護者を対象に臨床心理士による育児相談等を行えるようになっています。部屋の名前を「おひさまのへや」として明るいイメージにしています。

Ⅰ-⑪ななつまつナーサリー

法人職員の子どもを預かる保育所となっており、保育者の柔軟な働き方を支援しています。

Ⅱ-⑮災害避難場所の小学校への避難用門

門を出るとすぐに歩道橋があり、橋を渡ると東南にある小学校へすみやかに避難できます。

Ⅰ-⑯子ども達の心の拠り所のお地蔵様

子どもたちをいつも笑顔で見守ってくれるお地蔵様。子どもたちが学期終わりにはお礼を行い、行事等で守ってほしいときは、お願いごとをし、「感謝」の気持ちをお祈りすることにしています。

